



第 37 回 三ヶ日東小学校運営協議会

2025. 10. 15 15:00～16:30

浜松市立三ヶ日東小学校 会議室

進行:学校支援CD (鈴木)

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 議長選出

4 前回議事録の確認

5 熟議

議長：(和田)

(1) 学校サポーター・学習支援について (学校支援CD)

(2) 児童の様子に関すること (教務)
・全国学力・学習状況調査結果 等

(3) 学校評価アンケート項目について (教務)

(4) 令和7年度 学校運営協議会の自己評価について (教頭)

6 その他

(1) 次年度以降の委員について

(2) 次回議長の選出

(3) 今後の予定

・第38回 2月18日(水) 13:30～15:00

令和7年度 第36回 三ヶ日東小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年6月15日（日）14時40分～15時35分
- 2 開催場所 三ヶ日東小学校 大会議室
- 3 出席委員 石原 正仁、大野 恵美子、楠 道寛、和田 勝美、大井 宏文、
長坂 恭輔、小寺 亜貴子、染葉 直美、鈴木 康二
- 4 欠席委員 若松 一也
- 5 学 校 中村 圭介（校長）、平田 香織（教頭）、高畠 博（教務主任）
山田 雅美（CSディレクター）
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 山田 雅美
- 8 運営協議会開催前に、「キラキラダンスコンテスト」の参観、審査を行った。

9 議長の選出

司会（染葉委員）から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、前回会議終了後決定した通り、楠委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 前回会議録の確認

司会の指示により、教頭から、別紙資料に基づき、前回会議録について説明があった。

11 協議事項

- （1）キラキラダンスコンテストについて
- （2）学校サポーター・学習支援について
- （3）その他「一緒につくろう！CS！」について

12 会議記録

司会から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）キラキラダンスコンテストについて

議長の指示により、教頭から別紙資料に基づき、キラキラダンスコンテストについて説明があり、意見を求めたところ、委員からは以下の発言があった。

◇選曲方法は？（大野委員）

↳子供たちが選曲した中から曲の難易度等を考慮し、選んでいる。

◇昔の曲を子供たちの解釈でアレンジしていて、ギャップも感じたが、とてもいいと思う。（大井委員）

◇選曲によって、周りの方々のノリが違うので審査基準にも影響が出てくる。（楠委員）

◇本番までの間に選曲された曲を聞き、当日までワクワク楽しめる。（和田委員）

◇11時頃に仕上がっていると思い見に来たが、下級生がとまどっていたりすると、6年生が目線を合わせて教えていた。（大井委員）

◇先に食事をしている班があったが、学年ごとに食べている班と、全員で輪になって食べている班とあり、後者の班の方が、本番でも子どもたちがまとまっていた。即興の難しさはあるが、皆で創り上げる満足感は得られる。照れて笑顔がなかなか出ない子もいたが、優勝した時には笑顔になれる。それだけ緊張してやっているのだと思う。（大井委員）

◇6年生がリードしているのはよくわかるが、事前に体育などで準備していないと難しいのではないかと？（染葉委員）

↳体育の時間に、基本のステップ等を練習したり、本番とは別の曲でダンスを創ったりして、準備をしている。

◇総仕上げが6年生のダンスで、まとめだと思う。とても生き生きと踊っていた。（大井委員）

◇縦割り班の取り組みは他にどんな活動があるのか？

↳清掃、運動会、縦割り遊び、6年生を送る会等

◇とても良い行事だと思っていたが、改めて学校の説明を聞いて、プロセスがとても共感できた。ダンスの上手い下手もあるが、それ以上に一つのものを作り上げていく中でいろんな成長があると思う。（長坂委員）

◇各チームに先生方がサポートについていて、児童主体で見守る形になっているが、チームづくりの観点でアドバイスがあると、色々な場面で活用できる力に変わっていくと思う。（長坂委員）

◇チームづくりの点で気になったことが、低学年は即興だと大変だと思う。事前に下級生とふれあえる時間を増やし、本番前から練習しておいた方が縦割りの繋がりとリーダーとしての自覚の面で、一体化したダンスを見せられればもっと盛り上がると思う。（楠委員）

◇3、4年生（中学年）になった時に、1、2年生（下級生）の面倒を見てあげることを学ぶのもいいと思う。（小寺委員）

◇いつもゲームで遊んでいる子たちが、ダンスの練習の夢中になっていて、ワクワクがとまらない様子だった。（小寺委員）

- ◇ダンス経験者がいないチームが優勝することで自信に繋がる。どうしたら勝てるのかを考える力がつく。（小寺委員）
- ◇ダンスを習ってきていても、審査する側がダンスを知らないので、審査基準が頑張っているかどうかだと思う。（大井委員）
- ◇前もって練習するよりは即興のほうがいいと思う。（鈴木委員）
- ◇去年は人を見て踊っていたのに、今年は自分で踊っている等の保護者の意見もあった。（小寺委員）
- ◇学校の周りを縦割りで探検する等して、助け合えたりすると絆がしやすい。（大井委員）
- ◇短期決戦でよかったと思う。準備期間が長ければ長いほど差ができる。限られた1日の中で身に着けられるものは多いと思う。そこを先生方が拾ってあげてほしい。（石原委員）
- ◇新聞の取材等積極的に入れてほしい。（大井委員）

（２）学校サポーター、学習支援に関すること

議長の指示により、染葉委員から別紙資料に基づき、学校サポーター、学習支援について説明があり、教務主任から、クラブ活動について説明があった。

委員から以下の発言があった。

- ◇マリンスポーツの方も考えたが、あまり反応がなかった。（大井委員）
- ◇６年生を対象に、生き方講座ができたらいと思う。（鈴木委員）

（３）その他「一緒につくろう！ＣＳ！」について

議長の指示により、教頭より、「一緒につくろう！ＣＳ！」について説明があり、意見を求めたところ、委員から以下の発言があった。

- ◇コーディネーター同士の意見交換会等が参考になる。（楠委員）
- ◇ＰＴＡは地域によって温度差がある。子供たちのためになるならやってあげるべきだと思う。（大井委員）

■その他連絡事項等

○司会より次回議長の選出について、議長を和田委員、司会を鈴木委員に推挙する旨の報告があった。

○教頭より、年間予定について説明があった。

第３７回：令和７年１０月１５日（水）１５時００分～１６時３０分

第３８回：令和８年 ２月１８日（水）１３時３０分～１５時００分

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（三ヶ日東小学校）

1 調査の目的

本調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために行われている。全国の小6と中3を対象とし、小学校においては国語、算数、理科の3教科及び児童質問紙調査で構成されており、本校においても6年生が4月の一斉調査日に取り組んだ。本調査の結果は、学力評価や判断資料の一つとして活用し、今後の学力向上に役立てていく。

2 三ヶ日東小の結果の概要

本年度は、国語の正答率が全国平均・県平均と同等であったが、算数と理科については、全国平均・県平均を上回った。

調査教科	全国平均との比較	静岡県平均との比較
国語	—	—
算数	◎	◎
理科	◎	◎

◎ 上回る
— 平均同等
▽ 下回る

(1) 国語科の結果より

- 「言葉の特徴や使い方」に関する事項の正答率や、「思考力、判断力、表現力」の観点のうち、「読むこと」に関する内容の正答率について、県や全国平均を上回っている。
- ・「話すこと・聞くこと」「情報の扱い方に関すること」に関する内容の正答率は、県や全国平均を大きく下回っている。
- ・「話すこと・聞くこと」では、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する力や「情報の扱い方に関すること」では、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる力に課題が見られた。

(2) 算数科の結果より

- 昨年度正答率が低かった「数と計算」「データの活用」の領域の問題については、正答率が上がり、県や全国平均を上回っている。
- ・「変化と関係」の領域では、県や全国平均を大きく下回っている。
- ・「変化と関係」では、10%増量の意味を解釈し、増量後の量が増量前の量の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題に課題が見られた。

(3) 理科の結果より

- 「エネルギー」「粒子」を柱とする領域の正答率について、県や全国平均を上回っている。
- ・身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身についているかみる問題についての正答率が大きく下回っている。
- ・「地球」を柱とする領域では、氷が解けてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて知識を概念的に理解することに課題が見られた。

(4) 児童質問紙（生活習慣・学習環境・学習意欲等を尋ねる調査）の結果より

- 肯定的な回答（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）をしているものが多く、県や全国平均を上回っている。生活や学習に主体的に取り組んでいる本校の子供たちのよさが表れている。主なものは以下のとおりである。

「朝食を毎日食べている。」

「毎日、同じくらいの時刻に寝たり起きたりする。」

「自分にはよいところがある。」

「先生はあなたのよいところを認めてくれる。」

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」

「人の役に立つ人間になりたいと思う。」

「学校に行くのは楽しい。」

「自分と違う意見について考えるのは楽しい。」

「読書は好きである。」

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。」

- 授業の中でタブレットなどのＩＣＴ機器を使っている割合が高く、友達との意見交換や発表の際の使用についても頻度が高い。活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる、友達と協力しながら学習を進めることができる等と考えている児童が多く、課題の解決に向けて、自分から進んで取り組み、友達と協働的に学ぶといった、主体的・対話的で深い学びにつなげている児童が多い。

- ・ 平日の家庭学習の時間が２時間以上と答えた児童が、県や全国平均を大きく下回っている。また、１時間以上ＩＣＴ機器を勉強に使っている割合についても県や全国平均の約半分となっており、下回っている。
- ・ 休日の家庭学習の時間については、全くしない子はいないが、１時間より少ない子が約６割となっており、県や全国平均を下回っている。

3 本校の今後の取り組みや展望

国語科の学習では、言葉の使い方、漢字等の言語事項に関する知識・技能、登場人物の相互関係や心情の変化を捉える力が付いてきている。これからも、毎日の家庭学習を充実させ、本読みや漢字の書き取りの取り組みを継続していきたい。授業では、文章を読む目的を明確な情報を捉えること、伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させるように指導していきたい。

算数科の学習では、「変化と関係」に課題が見られるため、基準となる数を見だし数量の関係を自分なりの表現方法で捉えさせることを繰り返し行うようにする。また、知識の習得や習得した知識を活用させる活動が大切となることから、計算ドリル等を活用し基礎学習を繰り返し行うとともに、学んだことを生活や学習に活用できるよう、学習展開を工夫したり、振り返りの場を大切にしたりして、意識を高めるようにしたい。

理科の学習では、問題解決や科学的な探究のプロセスを通して身に付けた知識を活用し、表現していくという深い学びをこれからも続け、学力を維持していきたい。領域の中では、時間がたつと知識として活用していきたい内容を忘れてしまっている場合があるので、学習の系統性を意識し、今の学びがこれまでの学習とどのようにつながっているか、また、生活にどう活用できるかを意識して、学びと学び、学びと生活をつないでいくことを心掛けるようにしていきたい。

児童質問紙では、「自分にはよいところがある。」「学校に行くのが楽しい。」等の肯定的な回答が多い。これは、学校や家庭で一人一人の子供の存在がしっかりと認められており、一人一人が大事にされていることの表れであると考え。今後も、温かい雰囲気学校の学校づくりを推進し、児童が分かる楽しい授業づくりにより一層力を入れていきたい。家庭学習の時間については気になるところであるが、ＳＮＳや動画視聴等に費やす時間が多くならないよう、情報モラルについての啓発活動を今後も進め、家庭での過ごし方を親子で考えるように呼び掛けたいと考える。 <文責 教務主任 高畠 博>

令和7年度 学校評価質問内容

保護者・教職員アンケート

※上段が児童のアンケート内容、下段の→が保護者（教職員）アンケート

【目指す子供像】

- 1 「よりよいじぶん」になるために、ゆめやもくひょうをもってかつどうしている。
→お子さん（児童）は、「よりよい自分」になるために夢や目標をもって活動している。
- 2 「よりよいなかま」をつくるために、まわりのともだちをたいせつにしている。
→お子さん（児童）は、「よりよい仲間」をつくるために、周りの友達を大切にしている。
- 3 「よりよいがっこう」にするために、かかりかつどうやいいんかいかつどうなどのしごとをしっかりとこなっている。
→お子さん（児童）は、「よりよい学校」にするために、係活動や委員会活動などの仕事をしっかりと行っている。

【進んで学ぶ子】

- 4 じゅぎょうはたのしく、ないようがよくわかる。
→お子さん（児童）は、楽しく授業を受け、内容がよく分かっている。
- 5 じゅぎょうでは、せんせいのはなしをしっかりときいている。
→お子さん（児童）は、先生の話のしっかりと聞いている。
- 6 じゅぎょうでは、ともだちのかんがえをしっかりときいている。
→お子さん（児童）は、友達の考えのしっかりと聞いている。
- 7 じゅぎょうでは、じぶんのかんがえを、すすんでつたえている。
→お子さん（児童）は、自分の考えを進んで伝えている。
- 8 じゅぎょうでは、わからないことやできないことに、ねばりよくとりくんでいる。
→お子さん（児童）は、わからないことやできないことに、粘り強く取り組んでいる。
- 9 タブレットをつかうときのやくそくをまもり、すすんでつかっている。
→お子さん（児童）は、タブレットを使うときの約束を守り、進んで使っている。

【思いやる子】

- 10 ちいきのひとやせんせい、ともだちに、あかるくげんきにあいさつをしている。
→お子さん（児童）は、地域や家庭（学校）で、明るく元気に挨拶をしている。
- 11 ひとがこまっているときは、すすんでたすけたり、てつだったりしている。
→お子さん（児童）は、人が困っているときは進んで助けたり、手伝ったりしている。
- 12 あいてのきもちをかんがえたことばづかいやはなしかたをしている。
→お子さん（児童）は、相手の気持ちを考えた言葉遣いや話し方をしている。
- 13 たてわりはんでのかつどうを、なかよくやっている。
→お子さん（児童）は、他の学年の子と仲良く関わっている。
- 14 ともだちのよいところやがんばっていることをすすんでみつけている。
→お子さん（児童）は、友達の良い所や頑張っていることを進んでみつけている。

【健やかな子】

- 15 きめられたがくしゅうやせいかつのルールをまもっている。
→お子さん（児童）は、決められた学習や生活のルールを守っている。

- 16 けじめのあるこうどうができています。
→お子さん（児童）は、けじめのある行動ができています。
- 17 せんせいは、がんばっていることをみとめてくれたりはげましてくれたりする。
→（保護者）学校の先生は、お子さんの頑張っていることを認めてくれたり励ましてくれたりしている。
→（教職員）わたしは、児童の頑張っていることを認めたり励ましたりしている。
- 18 がっこうに行くのは、たのしい。
→お子さん（児童）は、楽しく学校に通っている。
- 19 いじめは、どんなりゆうがあっても、ぜったいにいけないことだとおもう。
→お子さん（児童）は、いじめはどんな理由があっても絶対にいけないことだと思っている。
- 20 けんこうやあんぜんにきをつけて、がっこうせいかつをおくっている。
→お子さん（児童）は、健康や安全に気を付けて、学校生活を送っている。

【保護者・教職員のみ】

- 21 （保護者）わたしは、学校行事に参加したり、便りや学校のブログなどを読んだりして、学校の情報を知ろうとしている。
（教職員）学校は、便りや学校のブログなどで、校内の情報を発信している。
- 22 （保護者）学校は、いじめゼロに向けた取り組みができています。
（教職員）わたしは、いじめゼロに向けた取り組みができています。

【教職員のみ】

- 23 毎日の授業に向けて、教材研究の時間がとれている。

☆アンケートは選択式

☐ そう思う

☐ だいたいそう思う

☐ あまりそう思わない

☐ そう思わない

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立（三ヶ日東小）学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- ・令和6年度も、学校側の要望を聞き学校サポーターや外部講師などを積極的に活用するなど、学校と地域を結ぶ役割を果たしていく。
- ・地域版人材バンクの活用をさらに充実させていく。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・学校教育目標である「夢をもち、都筑の丘に輝く子」の具現化のため、地域と共に地の教育を進めていきたいという学校の願いに沿った熟議を進めていくことができたと感じている。
- ・それぞれの委員がそれぞれの立場から活発に意見を出し合い、毎回充実した熟議をすることができた。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・本年度も本校の特色の一つである学校サポーター活動を充実させることができて良かった。
- ・学校サポーター活動を通して、たくさんの方々が教育活動に関わっていただけて良かった。また、その地域の方々との充実した関わりが、子供たちが自分たちの地域について、さらに知ろうという意識を高めることにつながったと感じられた。
- ・今後は低学年の子供たちへのサポートをさらに進め、教育活動の充実を支援していきたい。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・コミスク便りは協議会ごとに発行し、その時の協議会での熟議の様子を中心に、保護者や地域の方に分かりやすく情報を伝えることができ、協議会や教育活動への理解を広げることができた。
- ・コミスク便りで、サポーターの方の活動の様子をさらに紹介し、紙面でもサポーターの募集を行えば、さらに多くの方のサポートをいただけるようになると思う。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・学校側の要望を聞き学校サポーターや外部講師などを積極的に活用するなど、学校と地域を結ぶ役割を果たしていく。
- ・子供にとっても、外部講師の方を招いての授業は楽しみであると思われる。今後も多様なジャンルの方に教育活動に参加をしていただき、子供たちの興味関心を高めながら、体験活動の充実を図っていきたい。
- ・学校運営協議会で熟議した内容をPTA、地域に積極的に発信し、様々な人々との協働で子供たちを育てる環境を作っていきたい。

(様式 1)

学校番号 (小・中)

令和 7 年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立 (三ヶ日東小) 学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

・学校側の要望を聞き学校サポーターや外部講師などを積極的に活用するなど、学校と地域を結ぶ役割を果たしていく。
・子供にとっても、外部講師の方を招いての授業は楽しみであると思われる。今後も多様なジャンルの方に教育活動に参加をしていただき、子供たちの興味関心を高めながら、体験活動の充実を図っていく。
・学校運営協議会で熟議した内容をPTA、地域に積極的に発信し、様々な人々との協働で子供たちを育てる環境を作っていく。

＜評価項目 1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

＜評価項目 2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

＜評価項目 3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

＜評価項目 4＞ 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

※ 委員の任期について (逐条解説 浜松市学校運営協議会規則より抜粋)

務担当などが該当する。

- ▷ 再任用職員・会計年度任用職員は、所属する任用担当課の許可を受ければ、委員となることができる。(学校関係職員は、教職員課への兼業の届出が必要となる。)
- ▷ 報酬は、協議会が職務の時間外に開催される場合に限り受け取ることができる。(年休等、休暇を取得して参加する場合は報酬受取不可のため、学校宛てに報酬受取辞退の書類の提出が必要となる。)
- ▷ 臨時講師の扱いは、浜松市の正規職員と同じである。

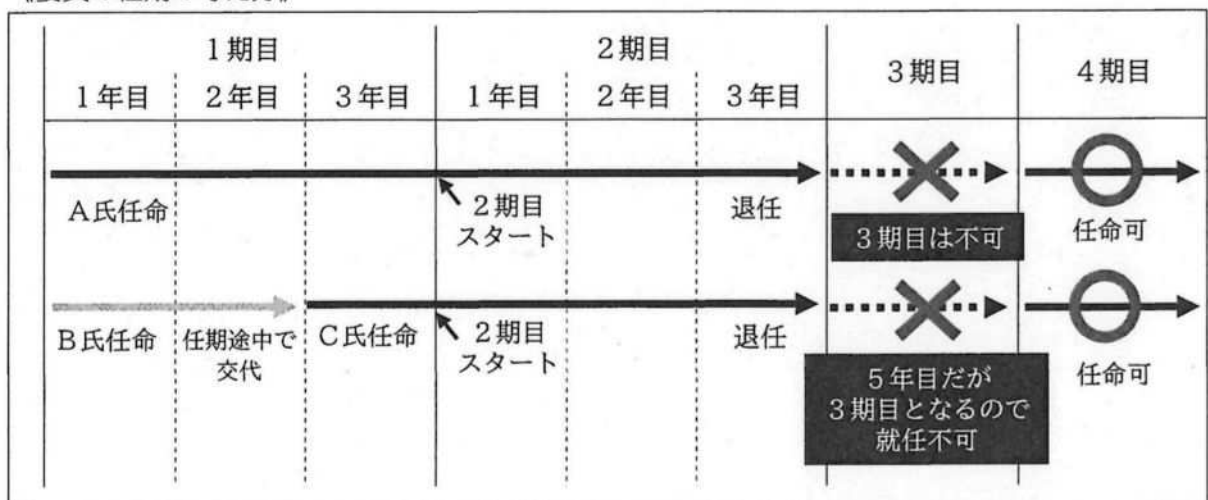
委員の任期

第10条 委員の任期は、3年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

- 委員の任期は3年、連続で任命できるのは2期までである。全委員を総入れ替えすることがないように、計画的な委員の選任が求められる。
 - ▷ これは、「浜松市附属機関の設置及び運営に関する基本方針」で、委員の任期は3年を限度とし、また、同一人物を委員とできるのは連続で2期までとされているためである。視点の固定化から来る協議の停滞を防ぎ、協議会に多様な意見を反映させるのが目的である。これにより、規則に関わらず、委員の任期は3年間×2任期の6年が最長となる。
 - ▷ 長期的に務めることが前提の学校支援コーディネーターについては、特例的に、3期以上継続して協議会委員とすることができるよう、令和5年8月に規則改正を行った。該当する場合に希望があれば、個別に相談・調整を行う。
 - ▷ 連続2期務めた委員が、1期3年経過後に、再度委員となることは可能である。
- PTA役員など、委員就任時は保護者だったが、3年の任期中に子供が卒業し、選出区分が地域住民に変わり、保護者である委員がいなくなる等、委員の必置条件を欠くことがないように留意することが必要である。
- 年度途中で委員が欠けたときは、校長は必要に応じて速やかに補欠の委員を選任し、教育委員会に推薦するものとする。

《委員の任期の考え方》



一緒につくろう！CS！

第18号

＼やまいか！／地域とともにある学校づくり

令和7年9月29日

浜松市教育委員会 教育総務課 地域連携グループ

第1回 コミュニティ・スクール研修会 ー令和7年6月23日(月)・24日(火)ー 場所：浜松市教育会館

今回は、文部科学省 国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官 志々田まなみ氏をお招きし、各学校の管理職と学校運営協議会長を対象として、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的推進」をテーマに研修会を開催しました。第4次浜松市教育総合計画にも記載されている「一体的推進」の意味を、自校の教育活動と地域学校協働活動とのつながりを見比べながら、協議会委員、教職員の方々と共有をお願いします。



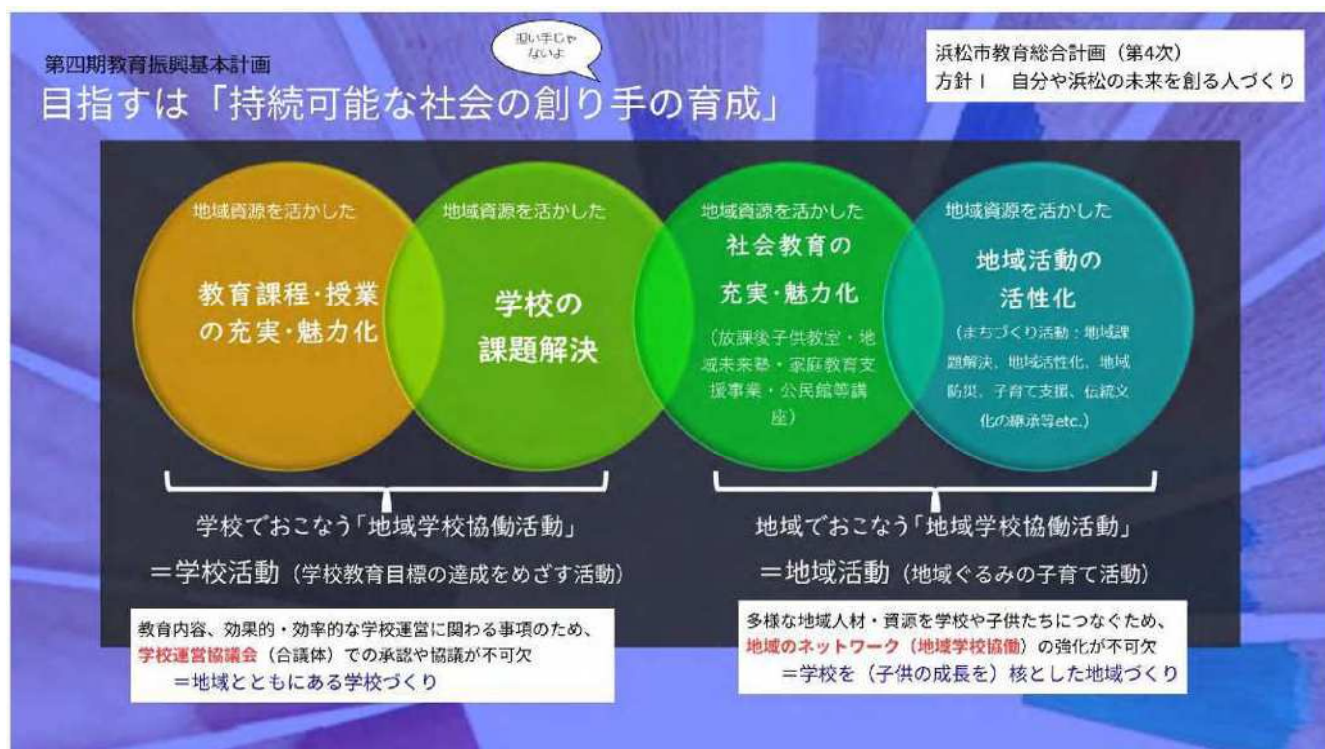
「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的推進」のモデルを示した図（講師資料より） 拡大版を添付しました。

参加者の感想

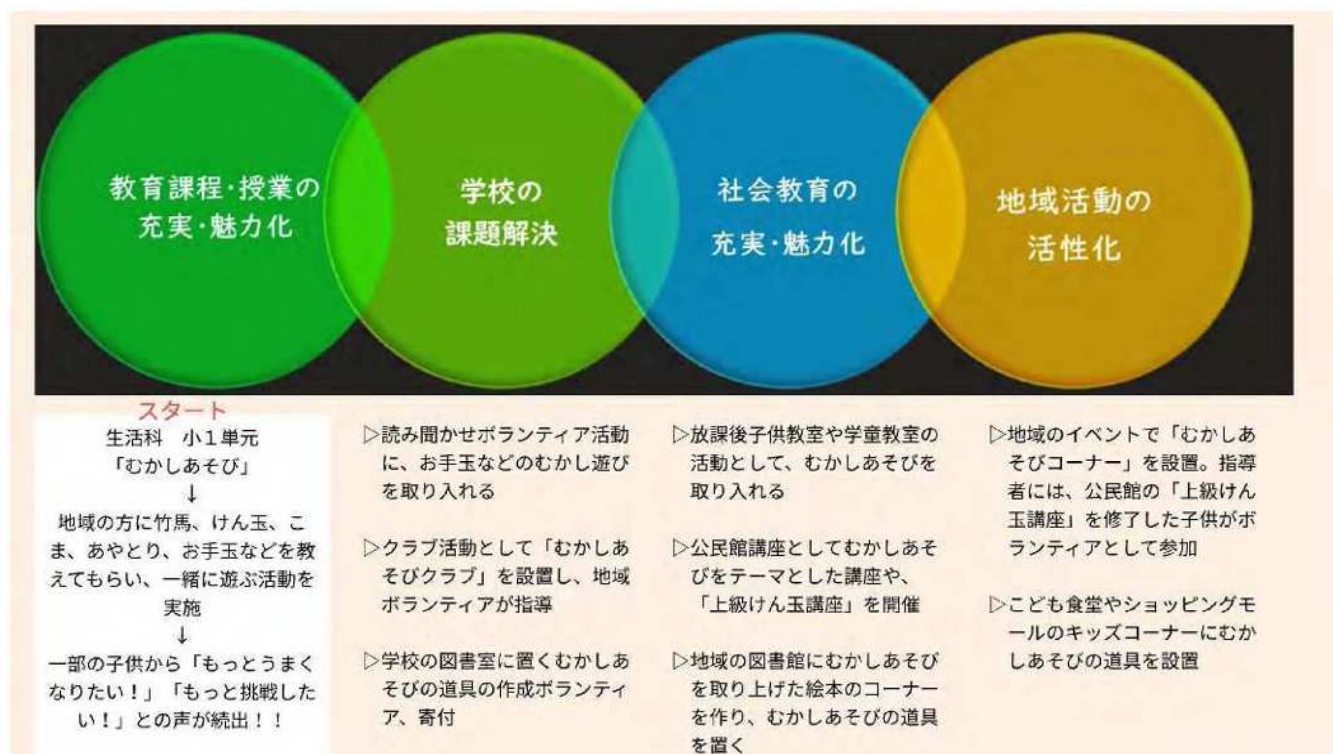
- ・提案が言い放しではなく、小さなことでも具体化できる協議会にしたい。
- ・協議会でざっくばらんに、全員が意見を述べ合う雰囲気をつくっていききたい。
- ・「つながり」に学校運営協議会がとても重要な役割を果たすことが分かった。学校に根差し始めた協議会の在り方や目指すところを見直し、更にブラッシュアップした形で継続していくことが管理職の役割でもあると思った。
- ・「一体的推進」の考え方がよく分かった。子供が教科で学んだことを深め広げるために地域の力を生かすことや、地域・保護者の願いを学校教育に取り入れることなど、双方向のつながりを大切にすることを学んだ。そのためにも、立場や価値観の違う人で構成されている学校運営協議会での熟議を活発に行いたい。

《 お知らせ 》 令和7年度10月1日（水）から、所属課が、学校・地域連携課 に変わります。
所在地・電話番号の変更はありません。

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的推進」のモデルを示した図
(講師資料より)



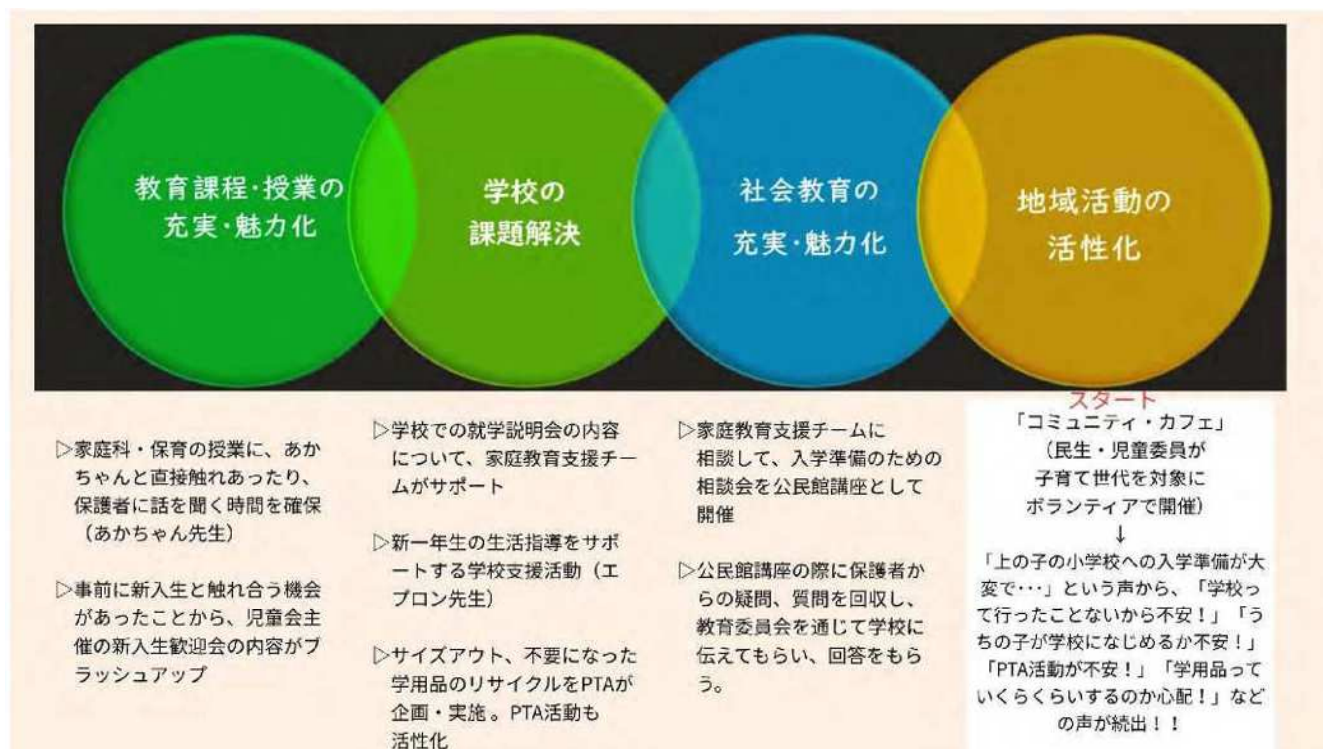
《 例①小学校：教育課程スタート 》



《 例②高校：教育課程スタート 》



《 例③小学校：地域活動スタート 》





令和7年10月15日

学校運営協議会委員 各位

学校運営協議会長 石原 正仁

令和7年度 第38回 三ヶ日東小学校運営協議会 開催について

このことについて、下記のとおり開催します。つきましては、関係各位には御出席をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

記

1 日 時 令和8年2月18日(水)13:30～15:00

2 会 場 浜松市立三ヶ日東小学校 会議室

3 内 容 (1)会長挨拶

(2)熟議

①学校評価の成果と課題から（教務）

②令和8年度学校運営基本方針・いじめ防止等のための基本的な方針
(校長)

③令和7年度学校運営協議会自己評価（会長）

④令和8年度学校運営協議会の目的及び年間計画、組織（会長）

⑤令和7年度夢育やらまいか事業（教頭）

⑥その他

4 その他

(1) 御欠席の場合は、2月13日（金）までに教頭平田に御連絡ください。

(2) その他、本件に関して御不明な点は、以下担当へ御連絡ください。

担当（連絡先）

浜松市立三ヶ日東小学校 高畠 博

CS ディレクター 山田 雅美

TEL 526-7034

mikkabihigashi-city.hamamatsu-szo.ed.jp